

第 35 期 事 業 報 告

(自 2023 年 4 月 1 日)
(至 2024 年 3 月 31 日)

株式会社 NHKエンタープライズ

目次

第35期事業報告

I. 会社の現況に関する事項	3
1. 事業の経過および成果	3
2. 事業の分野別の概況	4
(参考) 2020年度 コンクール等受賞一覧	27
3. 対処すべき課題	29
4. 設備投資等の状況	30
5. 資金調達の状況	30
6. 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況	30
7. 事業譲受の状況	31
8. 他の会社の株式その他の持ち分または新株予約権 等の取得の状況	31
9. 財産および損益の状況の推移	31
10. 主要な事業内容	31
11. 主要な事業所等	32
12. 従業員の状況	32
13. 重要な親会社および子会社の状況	33
14. 主要な借入先と借入額	33
II. 会社の株式に関する事項	34
III. 会社役員に関する事項	35
IV. 会計監査人の状況	37
V. 業務の適正を確保するための体制および運用状況	38

I. 会社の現況に関する事項

1. 事業の経過および成果

「2021-2023年度中期経営計画」の最終年度に当たる2023年度、株式会社NHKエンタープライズ（NEP）は、計画で掲げた5つの重点項目（コア事業の革新、新規事業の開拓、地域サービスの向上、Smart Work、SDGsへの貢献）を柱に、定時や特集の多彩な番組やイベント・デジタルコンテンツの制作、ライセンスの許諾、映像・ソフトの販売など、様々な分野で積極的な取り組みを続けました。受信料値下げとBS波削減を受けNHK委託が減少する中でも、魅力的な新番組の開発を進め、番組を展開したイベントやサービスを全国で行うなど、部門の連携を深めて事業の強化に努めました。また、関連事業持株会社の株式会社NHKメディアホールディングスの傘下子会社として、経営基盤の一層の充実を図るとともに、NHKグループで協力して事業の実施・開発に取り組みました。

当期の売上高は634億4千9百万円、営業利益は33億4千3百万円、経常利益は34億1千万円、当期純利益は22億3千4百万円。継続した円安と物価高騰の影響もあり、過去最高だった2022年度と比べ減収減益となりましたが、それに次ぐ2番目の売上高と利益となりました。なお、NHKに対する副次収入は12億2千8百万円で、目標の11億6百万円を上回り目標比111.1%となり、NHKブランドのリーチに一定の貢献を果たすことができました。

NHK関連業務では、幅広い世代に向けて多彩な番組を制作。看板番組の「チコちゃんに叱られる！」や「映像の世紀バタフライエフェクト」などに加えて、新番組では解体現場の職人技に迫る「解体キングダム」や超高精細のCG映像で文化財の魅力をひもとく「謎解き！秘密の至宝さん」が好評を集めました。ドラマでは、ろう者や難聴者の俳優を数多く起用した「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」や療養病棟を舞台に命の重みを問いかける「お別れホスピタル」などが高い評価を得るとともに、人気作では「正直不動産」の新シリーズの放送や映画「岸辺露伴 ルーヴルへ行く」が、若者をはじめ多くの世代を惹きつけ話題を呼びました。また特集ではNHKスペシャルで、首都直下地震の実態と教訓を伝える「映像記録 関東大震災 帝都壊滅の三日間」、圧巻の映像で地球のドラマに迫る「ヒマラヤ“悪魔の谷”」、デジタル調査で真相に迫る「調査報道・新世紀 北朝鮮 極秘ミサイル開発」など、NHKならではの質の高い番組を制作しました。高品質の4K番組にも注力し、知床や小笠原など世界自然遺産からの4K大中継、各地の紀行番組や時代劇を含む多くのドラマに加え、過去の映像を4K画質に変換するNEPビデオレストアサービスによる「伝説のコンサート」

シリーズなど音楽番組等で、多くの視聴者の好評を得ました。番組と連動した事業では、大河ドラマ「どうする家康」「光る君へ」や連続テレビ小説「らんまん」「ブギウギ」を中心に、トークショー、パブリックビューイングや各種の関連イベントを自治体とも協力して各地で開催し、多くの参加者を集めて地域の振興にも資する取り組みとなりました。

その他のイベントでは、多くの事業がコロナ禍以前の規模に戻り、アジア・太平洋ロボットコンテストはカンボジアで4年ぶりにリアルで開催されました。また、パラスポーツを応援する東京都のイベント「TEAM BEYOND」を制作したり、「小学生ボッチャ競技会」の東京大会をNHKアート、NHK厚生文化事業団とともに主催するなど、社会貢献事業にも精力的に取り組みました。

新規事業では、ユニバーサルサービス「手話CG」をNHKオンラインの「天気・防災 手話CG」サイトで年間運営したほか、NHKグローバルメディアサービスと共同開発した3D手話アバター「KIKI」が「東京2025デフリンピック応援アンバサダー」に就任しました。また、NHKの教養番組やドキュメンタリーを大学の学生・教職員が視聴できるサービス「オンライン授業用番組ライブラリー」は、人数が比較的少ない大学でも活用できる機能を拡充して利用の促進を図りました。

次期2024年度は、新しい中期経営計画の初年度となります。コンテンツ業界がいま世界的な大変化の途上にある中、NEPはNHK委託の減少をはじめとする、かつてなく厳しい経営環境に向き合いながら、社会に真に必要なとされる企業として成長していかなければなりません。そのために、役員・社員が長期間の討議と検討を重ねて、新たな中期経営計画を策定しました。経営理念「Enterprises for All! 冒険、創造、貢献。社会のために、すべての人のために!」のもと、放送、デジタル、イベントなど、培ってきたNEPのあらゆるコンテンツの「総合力」を結集して、NHKに貢献し、社会にソリューションを提供する取り組みを、全社一丸となって推進していきます。

2. 事業の分野別の概況

(1) <放送番組制作>

2023年度は、受信料の値下げやBS波削減の影響でNHK委託が減る中でも、多くの視聴者に訴求できる上質で見応えのある多様な番組の開発と制作に取り組みました。ドラマやドキュメンタリー、アニメやエンターテインメントなどNHKのテレビやラジオ番組を合わせて19,857本の番組を制作。売上高は427億73百万円でした。

番組コンクール関係では、「NHKスペシャル 映像記録 関東大震災 帝都壊滅の三日間前編」が、科学技術映像祭内閣総理大臣賞、「ダーウィンが来た！ 生きものの不思議を解き明かせ！ 子ども研究者スペシャル」が科学技術映像祭文部科学大臣賞、「BS1スペシャル デジタル・ウクライナ：衛星が変えた戦争」がアジア・テレビ賞最優秀賞、ワールド・メディア・フェスティバル銀賞、創作テレビドラマ大賞受賞作「月食の夜は」がアジア・テレビ賞最優秀賞、「わたしはパパゲーノ」プロジェクトがイタリア賞最優秀賞、「NHKスペシャル 新映像詩 里山」がドーヴィル・グリーンアワード金賞、ルミエール・アワード最優秀賞、「こころの時代～宗教・人生～ オモニの島 わたしの故郷～映画監督・ヤンヨンヒ～」が地方の時代映像祭選奨と数々の賞を受賞。この他にも多くのコンクールで受賞し、制作力の高さを示しました。

制作企画部

制作4センターの調整役として、事業提案のとりまとめや委嘱業務審査会の事務局業務や外部リソース調整業務を行いました。デジタルシフトプロジェクト、NHKミュージックライブラリー、「NHKスペシャル」や「クローズアップ現代」の音楽差し替え事業などにも取り組みました。

社会情報部

NHKらしさを追求した質の高いコンテンツの開発に積極的に取り組みました。総合テレビの新番組「解体キングダム」では、数々の制約下で繊細かつ高度な技術で解体工事に挑む人々の物語を描き、日本の技術力の高さを浮かび上がらせました。NHKスペシャル「映像記録 関東大震災 帝都壊滅の三日間」では、現存する関東大震災の映画を収集して高精細カラー化。百年前に起きた大災害をリアルに再現し、科学技術映像祭・内閣総理大臣賞を受賞しました。

このほか、総合テレビでは「チョコちゃんに叱られる！」「所さん！事件ですよ」「映像の世紀バタフライエフェクト」「ニュースLIVE ゆう5時」「笑わない数学」、Eテレでは「ギョギョッとサカナ★スター」「バリューの真実」「ウチのどうぶつえん」、BS1では「COOL JAPAN」「球辞苑」「BS1スペシャル」、BSPでは「ヒューマニエンス 40億年のたくらみ」、BSプレミアム4Kでは12月の開局に合わせ世界各地を生中継でつなぐ「新BS誕生スペシャル」、国際番組では「DESIGN×Stories」など、多彩なジャンルの番組を制作しました。

また独自事業として、「ラグビーW杯」のデジタル&ミニ番組展開や、Eテレ「カラフルな魔女」の映画展開などNHKの経営方針に資する取り組みを行いました。

文化部

NHKの経営課題に応えるべく、多彩な番組の制作に取り組みました。総合テレビの「ファミリーヒストリー草刈正雄 ～初めて知る米兵の父 97歳伯母が語る真実」が2023年7月のギャラクシー月間賞、そして、BSプレミアム「家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった」が8月のギャラクシー月間賞を受賞しました。総合テレビの特集ドラマ「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」では、主要な登場人物にろう者、難聴者の俳優を20人以上起用し、福祉番組や報道番組とも連携。ドラマ全編に渡って手話付きの放送を行うなど、新しい試みにもチャレンジしました。4Kでは、「はるかなる古代文明」シリーズがスタート。第1弾はマヤ文明、そして、第2弾ではアンデス文明・インカ帝国をテーマに迫力ある映像と最新の研究で古代文明の知られざる姿に迫りました。8KではPerfumeが至宝の数々を超高精細の3DCGでじっくりと鑑賞する美術番組「謎解き！ヒミツの至宝さん」や、その場所ならではの独特な響きを味わう音楽紀行番組「日本エコー遺産紀行 ゴスペラーズの響歌」などにも力を入れてきました。この他、総合テレビでは「有吉のお金発見 突撃！カネオくん」、BSプレミアム4Kでは「新日本風土記」、「英雄たちの選択」、「世界ふれあい街歩き」、Eテレでは「美輪明宏 愛のモヤモヤ相談室」「小雪と発酵おばあちゃん」などを制作。

また、東京発のparasports普及啓発イベント「TEAM BEYOND」の制作や、社会人向けリベラルアーツ学習プログラム「LIBRARY」、新世代のエネルギーについて考える「ENERGY FOR 2025」の映像コンテンツ制作にも取り組みました。

自然科学部

視聴者を魅了する圧倒的なスケールの自然番組、NHKスペシャル「ディープオーシャンⅡ紅海」「ヒマラヤ“悪魔の谷”人跡未踏の秘境に挑む」「プラネットアースⅢ プロローグ」を制作しました。新BSプレミアム4Kチャンネル開局に向けては「4K生中継 絶景すべて見せます！世界自然遺産」と題し小笠原、奄美・沖縄、知床、白神から、それぞれ90分にわたる生放送に取り組みました。「GEO JAPAN 絶景100」（10本シリーズ）では、日本の絶景の誕生の秘密に迫りました。この他、総合テレビ「ダーウィンが来た！」「さわやか自然百景」BS「ワイルドライフ」の3つの定時番組を引き続き制作。

自主事業としては「劇場版ダーウィンが来た！」第5弾、「恐竜超伝説2」を制作。北海道大学の産学共同プロジェクトでは「シマフクロウとともに暮らしたい」と題し、これまで蓄積してきた映像を活用。研究者とともに野生動物保護に関する講演会を行いました。また

12KVRで撮影したアフリカの野生動物の映像を使って「超体験NHKフェス2024」で新たな展示演出に挑戦しました。

さらにカナダのトロントで行われた「サステナブルな番組制作を学ぶ研修」に、プロデューサーを派遣。時代のニーズに応えた番組制作手法の導入にも引き続き取り組みました。

地域部

NEPが持つ全国ネットワークの強みを生かして、各地の魅力を伝えました。総合テレビ「うまいッ!」「あさイチ」中継、BSプレミアム4K「釣りびと万歳」、国際放送「Train Cruise」などを各支社と手分けして制作。「釣りびと万歳」は総合テレビにも放送枠を新設、「うまいッ!」は地域局向けのリメイク・再放送が昨年度の3倍近くの44本に上るなど、幅広い視聴者ニーズに応えました。時宜を得た番組制作のため、地域部が支援する形で、地域部と支社、支社間の人材交流を盛んにし、柔軟な制作体制を築きました。災害が頻発する中、「明日をまもるナビ」では被災地の金沢局や熊本局と連動し、公開収録を実施。能登地震後には地域部の社員2名を現地応援として派遣しました。ほかにも、13年続く長寿番組BSプレミアム4K「にっぽん縦断こころ旅」、総合テレビ「離島で発見!ラストファミリー」「サンドどっちマンツアーズ」「ひるまえほっと」「1ミリ革命」、国際放送「Coastal Encounters」で、各地のいまを紹介しました。特集番組は「大相撲どすこい研」「イッピン」「産業絶景」「戦争遺産島」「新日本風土記」「牧野富太郎博士の大冒険」「堤真一の地球大紀行」「8K生中継」「8K超ミクロハンター」など多数制作。「なつかしの節分会」では地域を長年定点記録したニュース映像を活用し、放送100年に向けた地域番組の可能性を示しました。独自事業では日展をPRするSNSショート動画を制作するなどの事業を手掛けました。

国際部

国際放送では「Direct Talk」「Global Agenda」など世界情勢を著名人のインタビューやディベートで紹介する番組や、「Anime Manga Explosion」「Ethical Every Day」「Yokai」「Culture Crossroads :Bosai」など日本の社会文化を世界に発信する番組を多数制作しました。国内波では、自分らしい生き方を求めて地方に移住する若者を追った定時番組「いいじゅー」(総合)が好評で、地方局と連動してトークイベント(福島南相馬)も実施しました。2024年のパリ五輪で日本勢のメダルが期待される「ブレイキン」「スポーツクライミング」などのアーバンスポーツもBS1で年間を通じて放送しました。NHKワールドとBS1で放送するデジタル調査報道番組「デジタル・アイ」は、アジア・

テレビ賞で最優秀賞を受賞、北朝鮮情勢を分析した回は「NHKスペシャル 調査報道・新世紀」に展開するなど、高い評価を得ました。

国際共同制作では、中国中央テレビとの「シャンシャンに会いたい」「世界遺産いただきます」、北京テレビとの「中国秘境 謎の民」、インド制作会社との「インド・スパイス達人紀行」など、現地制作者と組むことで、日本単独では取材が難しい場所やテーマの番組を作り、BS8K、4Kで放送しました。

ドラマ部

総合テレビについては、多数のドラマを制作。土曜ドラマでは、人気シリーズ「正義の天秤・シーズン2」と、終末期医療をテーマにした「お別れホスピタル」を制作し、数多くの賞に輝いた「透明なゆりかご」と同じ原作者・脚本家・演出家による医療ドラマの第二弾として、視聴者から多数の共感を得ました。ドラマ10は「育休刑事」と、超大人気シリーズ第2弾「正直不動産2」を制作。正月に放送された「正直不動産スペシャル」とともに、幅広い視聴者を獲得し、各地で行ったドラマの展示イベントも好評を博すとともに、配信大手への番組販売で売上に貢献するなど大きな展開の広がりにも成功しました。夜ドラ枠では、「褒める人、褒められる人」を制作。ユーモラスにゆるやかに流れる時間に多くの視聴者が魅了されました。さらに松任谷由実さんのヒット曲を題材とした原作を元に、ミニシリーズ「ユーミンストーリーズ」を制作しました。

BS波においては、BS時代劇は「大富豪同心3」、人気シリーズ「雲霧仁左衛門6」、そして新BS開局記念シリーズとして、小芝風花主演の大河時代劇「あきない世傳 金と銀」を制作し、視聴者獲得に貢献しました。

その他の単発ドラマでは総合テレビで意欲作の特集ドラマ「あれからどうした」、創作テレビドラマ大賞「ケの日のケケケ」、BSでは「大岡越前スペシャル」、歌川広重の生涯を描いた特集ドラマ「広重ぶるう」などを制作。また宗教二世をテーマとしたNHKスペシャルドラマ「神の子はつぶやく」は高い評価を得て、国際エミー賞にノミネートされています。

独自事業では、テレビシリーズから劇場用映画へと展開した映画「岸边露伴ルーヴルへ行く」が、興行収入12億円超を達成、かつてない規模のヒット作となりました。

「どうする家康 大河ドラマ館」は愛知県岡崎市・静岡県浜松市・静岡県静岡市の3館をオープン。岡崎と浜松は動員60万人突破。3館で計150万人超の快挙となり、大河ドラマに連動してドラマのご当地を盛り上げました。

「ワープステーション江戸」はNHK関連で大河ドラマ「光る君へ」を初め、連続テレビ小説BS時代劇・特集ドラマなどの撮影を実施。また外部貸し出しでは、映画「ゴールデン

カムイ」で巨大なオープンセットを敷地内に設営、撮影を行うなど、多方面からの使用がありました。

エンターテインメント部

定時番組では、総合テレビで「みんなのうた」「演芸図鑑」など、Eテレでは「ワルイコあつまれ」「日本の話芸」「わらたまドッカ〜ン」「診察中！こどもネタクリニック」「沼にハマってきいてみた」「古典芸能への招待」などを制作しました。BSでは「新・BS日本のうた」「The Covers」「ザ少年倶楽部」「ニュージェネ！」「プレミセ！」「クラシック倶楽部」「プレミアムシアター」などを制作しました。音声波ではクラシックからジャズ、ポピュラー、バラエティーと多様なジャンルで、ラジオファンのニーズに応える番組を制作しました。特集番組では、総合テレビ「ひむバス！」「JJJJ01」、BS「歌える！J-POP」シリーズや「六角精児の呑み鉄本線・日本旅」「鉄オタ選手権」「映画音楽はすばらしい！」など恒例となっている番組を制作しました。

また、4Kコンテンツの取り組みとして、過去映像にレストア技術を施すことで新たな創造価値を生んだ「洋楽倶楽部」「伝説のコンサート」シリーズも視聴者から大きな反響を受けました。

独自事業では、「TOKYO JAZZ」「古典芸能を未来へ」のイベント主催や、「True Colors SPECIAL LIVE」「古澤巖×山本耕史 Dandyism Banquet」などのイベント制作などを実施しました。さらに、「新・BS日本のうた」で開催局のイベントや番組に参加しての地域貢献や、「NHK紅白歌合戦」への演出・PR協力などで、NHKグループの一員としての使命を果たす事業も担いました。

語版展開部

海外ドラマでは、総合テレビ「アストリッドとラファエル 文書係の事件録 2・3・4」、Eテレ「ダイナの恐竜図鑑 2・3」、BSP/BS4K「コッソソニビ 二花院の秘密」「なぜ、エヴァンズに頼まなかったのか？」などの日本語吹き替え版を制作したほか、アニメではEテレ「おさるのジョージ」の日本語吹き替え版を制作しました。

海外ドキュメンタリーでは、BS1の「BS世界のドキュメンタリー」やEテレ「地球ドラマチック」の日本語版などを制作し、海外の最新的话题を視聴者へ届けています。

映画関連では、BSP放送用の日本語字幕版制作のほか、徳島県が舞台の映画「人生、いろどり」をNHK徳島局放送用にフォーマット編集したり、「桜色の風が咲く」では視覚障害のある方向けのガイド音声を副音声解説放送としてNHKの放送に活用するなど、地域サ

ービスやユニバーサルサービスに貢献しました。

さらに「世界ふれあい街歩き」の英語版「Somewhere Street」を制作し、NHKワールド JAPANを通じて海外配信されたほか、NHKの多岐にわたる番組の副音声解説放送を約 2,000本制作しました。

アニメ事業部

総合テレビでは、「キングダム5」、「TIGER&BUNNY2」、「地球外少年少女」を放送。人気シリーズの続編や著名クリエイターの最新作として人気を博しました。

Eテレでは、人気コミック原作で、高校のオーケストラ部を舞台とした青春群像劇「青のオーケストラ」を放送。アニメ本編に加え、イベントや関連番組、NHKの音楽番組とのコラボ等、アニメとクラシックのファンを繋ぐ幅広い展開を行いました。また、同じく人気コミックが原作の「ドッグシグナル」を放送。人と犬との様々な関わりを通して新米ドッグトレーナーの成長を描き、アニメファンに加え、愛犬家の視聴者からの関心と共感を得ました。そして“プリキュア”シリーズの新作「キボウノチカラ～オトナプリキュア’23」をNHKで放送したことも大きな話題となりました。Eテレ平日に放送した「忍たま乱太郎」は放送開始31年目を迎え、昨年度に引き続き30年記念の展開で盛り上げ、「おじゃる丸」では大河ドラマ「光る君へ」とのコラボ展開を開始しました。

さらに「おしりたんてい」「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」「かいけつゾロリ」「チキップダンサーズ」「きかんしゃトーマス」の新シリーズ、「宇宙よりも遠い場所」等を放送しました。

デジタルサービス事業部

Webサイト、SNS展開、データ放送、ハイブリッドキャスト、4K・8Kデータサービス、動画配信、など幅広い業務に対応できる高い制作力を活かし、NHKのデジタル発信を支えました。

「NHKオンライントップページ」「NHKワールドJAPAN」「NHKドラマ」「NHKミュージック」など、基幹サイトをはじめとしたNHKホームページの制作及びSNS発信を支えました。また放送連携事業では、連続テレビ小説、大河ドラマ、紅白歌合戦などのデータ放送・ハイブリッドキャスト等の開発・運用を実施しました。

NHKの基幹デジタルサービス「NHKプラス」では、運用監視業務を担当しており、24時間365日の安定した運行を支えています。

社会貢献活動として手話CGサービスの開発にも取り組んでおり、NHK気象災害サイトでの活用をはじめ、手話が得意なデジタルヒューマン「KIKI」を開発し「東京2025デ

フリンピック応援アンバサダー」として採用されるなど、広く社会に役立つ事業として進めています。

(2) <イベント事業・ソフト制作>

イベント事業部

多くのイベント案件の実施規模が、コロナ禍前と同等もしくは超える水準に戻りました。

「高専ロボコン」は競技課題名「もぎもぎ！フルーツGOラウンド」のもと、ロボットたちが「障害物を乗り越える」と「フルーツを収穫する」で得点を競い合い、11月に国技館で開催された全国大会を目指し奮闘しました。社内の開発提案から生まれたアマチュアゲームクリエイターNo.1を決めるコンテスト「神ゲー創造主エボリューション2023」は、若きクリエイターたちが年末の決勝大会に向け「革新的」なゲームを披露しました。

フォーラム・シンポジウムは「がんと生きる ～こころとからだ 私らしく～」 「心臓フォーラム～チームで考える心臓弁膜症～」等の医療系分野以外に、遺贈寄付を考える世代に向けた「人生100年時代における幸福感を考える」、地球規模の課題に向き合う「東京フォーラム2023 Shaping the Future」、環境問題をテーマにした「ニッポンの未来フォーラム」などを計10回開催しました。

天皇皇后両陛下に御臨席いただいた国民行事の「第42回全国豊かな海づくり」は「守りぬく 光輝く 豊かな海」をテーマに、式典行事や放流行事をはじめ、関連行事を実施し道内外から多くの方にご参加いただきました。同じく国民行事の「第38回国民文化祭」「第23回全国障害者芸術・文化祭」では、開会式に天皇皇后両陛下に御臨席いただき、石川の文化の歴史をたどりながら、現代、そして未来へとつながる旅物語をステージで披露し、本大会の開幕を華やかに彩り自治体や関係各所から高い評価を得ることができました。

パラスポーツの普及啓発・定着を目途とした「令和5年度 TEAM BEYOND」では、メインイベントの「BEYOND STADIUM」で前年比倍増の2,400人の来場者を集めたのを筆頭に、パラ競技見学会、パラアスリートとの朝食ランニング会など大小合わせて約14のイベントを実施。委託元の自治体からも高い評価を得ることができました。

上演開始から13年目を迎えた「ミュージカル 忍たま乱太郎」は、コロナ禍前を上回る公演数を上演し、関連イベントも含め5万人以上の動員を達成しました。NHKで放送した大河ファンタジーを初舞台化した音楽劇「精霊の守り人」は全33公演を完売し、観劇いただいたファンの皆さんや委託元企業から好評をいただきました。

映像クリエイション事業部

<映像ソフト制作>

令和5年度徳之島世界遺産センター映像制作業務を受託。NEPが誇る自然映像制作力を活用し30種ほどのコンテンツを制作しました。NEPが保有する日本に数台しかない360°のカメラを使用したバーチャルトリップコンテンツや、8Kで撮影した生物をピンチアップできる映像を制作したコンテンツなどが、2024年に徳之島に完成する世界自然遺産センターで常設展示されます。

特別展「海」では展示のメインコンテンツである8K縦型大型映像「海のエレベーター」を制作。ダイオウイカやメガマウスなど貴重な2Kの映像をNEPビデオレストアサービスで8Kにアップコンバートし巨大な縦画面の画質に耐えうる迫力の映像を制作し来場者に喜んでいただきました。

JRA馬事公苑リニューアルに合わせて、2020年に新しく生まれ変わった馬事公苑の特徴や取り組みを利用者に分かりやすく丁寧に紹介する映像を制作しました。

「NEPビデオレストアサービス」では、過去最高の受注量、年間700本を達成。NHKからの受注だけでなく、JRAや手塚プロモーション、レコード会社など外の受注先も広げられた1年となりました。また、レストアした白黒映像をAIでカラー化するなどその活用範囲も広げました。

<展示・イベント>

「超体験NHKフェス」の関連イベントとして、NHKの開発する最先端の技術や放送番組を体験できる、未来のメディア技術体験空間「ミラクルビジョン ～チョットステキなタイケンシナイ?～」をNHKプラスクロスSHIBUYAで実施。8KCGで観る中尊寺金色堂や、日本の自然、文化、いきものを8Kモニターで紹介、8K3D花火を視聴できるシアターや3Dポケット標本などメディアの未来を体感できるコンテンツで、2月6日～3月31日（54日間）67,436名の来場者を迎えることができました。

「小学生ボッチャ競技会～2023東京大会～」では、チーム数17、参加者先週数89名（うち40名が特別支援学級、特別支援学校の児童）が参加。本戦では予選を勝ち上がった6チームが参加、白熱した試合となり、小学生たちに競技を通してインクルーシブな社会を体験する場を提供することができました。

<映像教材>

小学校国語、小学校社会、小学校音楽、小学校英語、小学生のためのデジタル・シティズンシップ、デジタル教科書用の映像制作（小学校地図帳、中学校理科、中学校英語）を各教

科書会社から受注し、DVDや配信用の教材として提供しました。また、著作権情報センターからは小・中・高等学校向けの著作権教育のアニメーションの映像教材制作を受託し、ワークシートや指導案を含めたウェブ用コンテンツとして2024年3月から同センターのウェブページで公開されました。

(3) <地域での番組制作、事業>

近畿総支社・四国支社

近畿総支社では全国放送の「探検ファクトリー」「歴史探偵」「すてきにハンドメイド」「芸能きわみ堂」「日本の話芸」、国際放送の「Core Kyoto」、地域放送の「ぐるっと関西おひるまえ」「ちゃうんちゃう？」などを制作したほか、大阪放送局BCP強化の一環として金曜午後を生放送で編成する“BKフライデー”の「きょうの料理」「京コトはじめ」「ニュースきん5時(キンゴジン)」を制作、四国支社では全国放送の「夏井いつきのよみ旅!」、地域放送の「ギュッと!四国」「ノルノルミシル!」「前園真聖 四国ともたび」などを制作しました。

さらに特集番組として、近畿総支社では全国放送の「超体感!四国 お遍路の旅」「生中継 古都の春 光る君へ 千年の桜(三井寺パート)」、地域放送では初の試みとなる関連外制作の「せーの!で編集してみたら…」「What`s 買人?」、大阪放送局の会館公開+集中編成の「BK大感謝祭(11/3~5)」でメインのイベントとなる公開生放送7番組と「鉄オタ選手権 関西私鉄大集合スペシャル」の公開収録を制作、四国支社では地域放送の「“やきゅう王国” 応援宣言!」などを制作しました。

NHKからの受託事業は、新型コロナの影響がなくなり公開番組及び関連イベントは当初の予定どおり実施されました。近畿では大河ドラマ「どうする家康」関連で織田信長トークショーを近江八幡市で開催、「光る君へ」では、パブリックビューイングやトークショーなどを京都市や宇治市などで自治体と協力して運営しました。「歴史探偵」と連動した安土城や関ヶ原の合戦のVR体験イベントを大阪府内各地、大津市で実施しました。Nコンがコロナ禍で開催されなかった時期の世代に参加を呼び掛けて開催された「Re-Nコン」は、大きな反響と呼びました。防災関連ではNHKの開発推進と連携し、地域の小学生を対象にした「デジタル防災クラス」「防災サバイバル」などを各地で実施しました。

四国支社では公開番組に加えて、朝ドラ「ブギウギ」のスペシャルトークショーを東かがわ市で開催、地域貢献イベントとして「みんなのしこく文化祭」を企画運営しました。新たに「デジタル昆虫展AR」を四国だけでなく大阪、札幌などでも実施するなど全国展開しま

した。また、愛媛新聞社との共催イベント「愛媛防災シンポジウム」に加えて、「企業防災セミナー」の運営業務を担いました。

展博事業では、京都国立博物館「親鸞聖人生誕850年特別展」、京都国立近代美術館「京都画壇の青春」を共催しました。自主事業では、コロナ禍で休止していた「中山ワンダフルフェスタ」が再開、「国際ロータリー地区大会」や「姫路城世界遺産登録30年記念式典」などを受託しました。また、「世界バラ会議準備支援業務」、滋賀県立平和祈念館の「戦争遺跡・証言映像制作」和歌山県「令和5年度生物多様性保全に係る人材育成事業」などを継続して実施しました。

NHK大阪ホールは、継続してコロナ感染対策を徹底し、安心・安全な管理・運営に努めました。朝ドラ「ブギウギ」の収録で利用されたため、外部利用は例年より減少しました。クラスターの発生や事故等もなく、予定されていた公演等は順調に開催することができました。

中部支社

制作部は、地域向けの昼前情報番組や夕方ニュースで、大河ドラマ「どうする家康」の舞台裏や俳優インタビューなどの企画を多数制作しました。福井放送局の「朝ドラちりとてちゃん 放送10年イベント」では、番組ディレクターがイベント制作も担当し、放送とイベントの相乗効果で地元での盛り上げに貢献しました。全国放送ではオーストラリアでロケしたBS1特集「激走！ソーラーカーレース」を制作しました。

企画事業部は、大河ドラマや家康をテーマにしたイベントを多数受注しました。NHK取引では、番組連動のステージおよび展示で構成した「Nレコ2023 NHK名古屋 まるごと広場～もっと家康！もっと徳川！」、「天下人のスマホ in 関ヶ原」初リアルイベントのステージ制作では、演出にトータルライザーシステムを取り入れ、更には配信されたことで新しいタイプの企画となりました。独自事業では、大河ドラマの舞台となったゆかりの地の自治体17か所で関連イベントを実施し、地域振興に一役買う結果となりました。企画美術展では、日本工芸会陶芸部会50周年記念展(2021年度開始・8会場)と田島征三展(2022年度開始・4会場)の巡回を終了しました。デジタル部門では、名古屋局ホームページやデータ放送の制作、データ情報アーカイブス管理業務のほか、本社DS事業部のドラマポータルサイト業務に本格的に参画しました。

中国支社

広島局金曜730『コネクト』では、小野文恵アナウンサーが中国地方の各地の魅力を伝える「ブラフミエ」や、広島交響楽団と若者のコラボ「広島交響楽団×夢プロジェクト」、サンフレッチェ広島の新しいホームグラウンド完成を機に「まちなかスタジアム徹底解剖SP（72分）」等を放送。特に「みんなのカープ県民大会議」は6度目、「山下健二郎 とっておき絶景旅」は4度目、「アニメ聖地旅」は3度目の放送となり、NHK広島局の看板番組として定着しています。また地域情報番組『ひるまえ直送便』では(月)～(金)生放送で中国地方の魅力を伝えたほか、かつてニュースや番組で取り上げられた話題の“今”を訪ねるアーカイブス活用番組「あの時を取材中」を制作し、広島以外の中国各局の金曜730として放送しました。全国放送ではBS2Kで「“普通”なんて言葉じゃくくれない 不登校経験者が7割の高校」、BSプレミアム4Kで「広島交響楽団 大河ドラマ名曲コンサート」を放送しました。

イベントでは4年ぶりに通常開催されたフラワーフェスティバルに合わせ会館公開「NHKシクラメンパーク」を実施し、「連続テレビ小説らんまん」「カープ県民大会議」のトークショー等を実施しました。また4Kの高精細モニターに映る被爆者に質問すると答えが返り、あたかも会話をしているような体験が得られる「被爆AI」の展示を5月のG7サミット、11月の広島市の平和文化月間に合わせて実施し、来年の被爆80年に向けて機運醸成に貢献しました。

九州支社

地域情報番組「はっけんTV」「はっけんラジオ」を(月)～(金)で生放送、またアーカイブスを活用した特集番組「映像タイムマシーン九州沖縄」を新たに制作し、九州沖縄地方の魅力を余すことなく伝えました。中でも魚離れを食い止め漁業関係者を応援する「ウオカツ!」、高校のユニークな部活を紹介する「キミだけ応援団」はともにレギュラー化されて3年、NHK福岡の顔として定着しつつあります。また佐賀局や大分局の金曜730を制作、さらに「あさいち 愛でたいNIPPON」の舞台となった鹿児島で、素材を活用し金曜730を新たに制作する等、地域放送にも貢献しました。全国放送では「超貴重映像で迫る！イリオモテヤマネコ進化のミステリー」、「新日本風土記 太宰府(BS2K・BSプレミアム4K)」を制作。また「SL人吉号 最後の日々 時代を駆けた102年(BSP4K)」では、日本最古のSLの軌跡とSLに魅せられた人々の姿を伝えました。

イベントでは九州沖縄の新たな才能を発掘する会館公開音楽イベント「六本松サテライト」の運営をほぼ毎月実施。2月には会館を飛び出2,000人を集めた「六本松サテライトFES2024春」を行った他、「ウオカツ×宮崎延岡の高校生」「ウオカツ×福岡の長浜市場」

と番組連動イベントを実施。福岡局の視聴者リレーション活動に貢献しました。またNHK長崎局と長崎県、今年B1に昇格した長崎ヴェルカと連携して「食」と「運動」をテーマに元気を届ける「NAGASAKI 元気 BOOSTER」というキャンペーンを展開。さらに自主事業としては「どうする家康トークライブ」を佐賀県と唐津市の委託で、朝鮮出兵の拠点となった名護屋城のホールで実施、NHKのIPの地域での展開に尽力しました。

東北支社

全国放送は、忠犬ハチ公の生誕100年を機に「発掘！ハチ公100年のヒストリー」、「NHKスペシャル ヤマト王権・空白の世紀」、「新日本風土記 秋田川反・雪の酒場街」、大河ドラマと連動した8K生中継「家康ゆかりの地を訪ねて 日光東照宮」、8KとEテレで放送した「ココリコの生きものどアップ！超マイクロハンター」を制作しました。地域放送は、「東北ココから（金曜730）」で、アーカイブスを活用した「あなたの町の映像アルバム」、すい臓がんの人たちや孤立する妊婦を取り上げた社会性のあるドキュメントを制作。さらに、全国放送のあさいちと東北ココからを連動させ、東日本大震災関連の「篠山輝信の東北旅」も制作しました。

イベントは、ハチ公生誕100年に関連する記念トークショーを秋田県大館市で実施しました。さらに、「東北ココから あなたの町の映像アルバム」と連動して、青森県十和田市で上映イベントを行ったほか、NHK文化センターと連携して「ミュージカルで表現する忍たま乱太郎の世界」という講座を実施しました。

北海道支社

全国放送番組では、「さわやか自然百景」「うまいっ！」「あさいち」「釣りびと万歳」などの定時番組、国際放送では、北海道の雄大な自然の魅力を伝える「Wild Hokkaido!」と、鉄道旅の楽しさを伝える「トレインクルーズ」を制作しました。地域放送では、定時の「おはよう北海道」「ひるナマ！北海道」「ほっとニュース北海道（ほっと中継）」の制作、エリア放送では道央・道北・道東・道南4つの地域から、それぞれ5日間にわたって地元の情報を伝える「エリア中継キャラバン」、アーカイブス映像を活用した「あなたの町の映像アルバム」を制作しました。

受託事業では、「NHK全国音楽コンクール」の北海道7地区の地区大会と北海道ブロック大会を受託しました。札幌放送会館で実施する地域戦略イベントとして、夏と冬の会館公開、道内各地から集めた恐竜や化石の標本と古生物の復元画を展示した「太古のいきものよみがえる展」を実施し、多数の親子連れが放送会館に訪れました。

自主業務では旭川市科学館から展示用映像、J R北海道から研修用映像の制作を受注しました。

(4) <映像ソフト販売>

映像ソフト販売については、大河ドラマ「どうする家康」連続テレビ小説「舞いあがれ！」「岸边露伴は動かないⅢ」「正義の天秤2」など、高い成果を上げることができました。他にドラマでは連続テレビ小説「らんまん」「大奥」「大富豪同心」「満天のゴール」「遙かなる山の呼び声」「作りたい女と食べたい女」などを販売し、好評を得ることができました。ドラマ以外では「アニメ三銃士」「笑わない数学」「帰ってくれ TAROMAN)」「NHKスペシャル 恐竜超世界2」「日本列島生きもの超伝説 劇場版ダーウィンが来た！」「みんな集まれ！こどもうたまつり」などを販売しています。

NHKエデュケーショナルの協力により、「おかあさんといっしょ」では「最新ソングブック きみにはくしゅ！」「メモリアルベスト だいすきなきみに」「ファミリーコンサート すれば・・・トモダチ？ぴよんぴよんびよーん」「ファミリーコンサート 星空コンサートであいましょう」、「いないいないばあっ！」では「ワンワンわんだーらんど まつりだ！はっぴい☆」「やっほー☆」が好調でした。

NHKのアーカイブ映像からは「チェッカーズNHKプレミアム Blu-ray BOX」「決定版 三波春夫映像集」といったアーティスト系を商品化。「図鑑 MOVE」は「世界の探検」「は虫類・両生類 新訂版」「恐竜2 最新研究 新訂版」の3商品を新たにラインナップに加えました。また通販専売商品として、大河ドラマから「琉球の風」「武蔵 MUSASHI」「八代将軍吉宗」「北条時宗」を、そのほか「たちまちスマホの達人」などを販売しました。

新規発行ディスク数は、トータルで439ディスク(昨年740ディスク)となりました。

(5) <番組提供>

放送事業者への番組提供

<チャンネル銀河><AXN><時代劇専門チャンネル><BS12><歌謡ポップスチャンネル>など29チャンネルに対し、大河ドラマ2作品、連続テレビ小説7作品をはじめ、アニメ、音楽番組、韓国・中国・欧米ミステリードラマなど、合計160タイトルを提供しました。・ケーブルテレビ事業者には、36局へ連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」「あさ

が来た」、大河ドラマ「西郷どん」など77タイトルを提供しました。

VOD事業者への番組提供

<AMAZONプライム><U-NEXT><ドコモ・アニメストア><Hulu><FOD>など、全30事業者にアニメ番組や幼児番組（DVD原盤）、韓国・中国ドラマなど海外番組含め371タイトルを提供しました。

素材提供事業

NHKの指示により、8月1日から素材提供料金のカテゴリー分類や使用単価等について全面改定し、同時にホームページのデザイン等もより分かりやすく刷新しました。これは使用を希望する方々により広くご利用いただくことを目的としたものです。年度後半にかけて徐々にその効果が表れ、素材の申し込み件数は昨年を上回る数字で推移しました。

また、(福)NHK厚生文化事業団、(公財)放送番組センター、(福)聴力障害者情報文化センターの3公益団体への番組提供も例年通り行っており、番組の利活用にも貢献しています。

(6) <キャラクタービジネス>

ドラマ展開では、大河ドラマ「どうする家康」の書籍へのライセンスが総数14種、総発行部数行部数は90万部を超える大ヒットとなりました。続く2024年の「光る君へ」も現在6種の書籍が発行され発行総数33万部を超え、さらに勢いを増しています。

ドラマタイトルロゴの商品化へのライセンスも例年になく多く、3月末までに合計148社から500件の商品化申請がありました。ドラマの舞台地を中心に売れ行き好調です。

アニメでは、「忍たま乱太郎」が定番となったコラボカフェにおいて渋谷109へ初出店をし、今までとは異なるエリアへの拡大を行いました。2022年度から展開している「忍たま30 “の超目玉企画として2月22日の忍者の日に「劇場版 忍たま乱太郎 ドクタケ忍者隊最強の軍師」の公開を発表。Xトレンド1位を記録するなど大きな話題を呼びました。アニメ「魔入りました！入間くん」では、水族館とのコラボにおいてオリジナルグッズの発売に留まらず、映像と音楽を使ったイルカショーの展開も行いました。同時期に初の2.5次元コンテンツ「魔入りました！入間くん THE STAGE」を公演しました。アニメ「おさるのジョージ」も好調を継続し昨年度に引き続き売上記録を更新しました。7月にはカフェ第3弾を渋谷の宮下パークにてオープンし、連日ほぼ満席という実績を出しました。

幼児番組展開では、2023年度に「いないいないばあっ！」の登場キャラクターが交替となり、ライセンスした新キャラクター「ぼうぼ」の商品が好調に売れました。

その他、「チョコちゃんに叱られる！」は、自治体、大学、飲料メーカー等が推進する免疫ケアのプロジェクトキャンペーンに採用され、店頭や学校、交通機関で健康啓蒙活動をおこない話題となりました。

(7) <権利ビジネス>

海外の番組については、欧米ドラマ「アストリッドとラファエル 文書係の事件録2、3、4」「DOC 明日へのカルテ2」「こちらベスト探偵団2」「デイナの恐竜図鑑2、3」、中国ドラマ「上陽賦」韓国ドラマ「コッソソビニ 二花院の秘密」などがNHKで放送されました。また、中国ドラマ「永楽帝」、欧米ドラマ「アストリッドとラファエル1-3」「刑事ダグ リッシュ」、韓国ドラマ「イ・サン」「トンイ」等を配信・放送で展開しました。ドキュメンタリーでは、「実録 マリウポリの20日間」「翔平を追いかけて」「ハマス 謎に満ちたイスラム組織の実像」「生命の躍動 プラネットアースの1年」「恐竜アドベンチャー」などを放送しました。ライフスタイルでは「ソーイング・ビー」「ブリティッシュ・ベイクオフ」が放送されました。クラシック音楽番組は、「パリ祭コンサート2023」「マシュー・ボーンのかみ割り人形」などを購入し、NHKで放送されました。

海外番組販売では、ドラマが人気を集め、「正直不動産」シリーズがグローバル配信されたほか、連続テレビ小説「まんぷく」「ブギウギ」や大河ドラマ「どうする家康」「光る君へ」などが販売されました。アニメでは、新作「青のオーケストラ」「ドッグシグナル」などが世界各国に販売されました。ドキュメンタリーでは、「恐竜超世界2」「超進化論」「ワイルドライフ」などの自然・科学番組が人気を呼びました。

(8) <NOD事業>

NHKオンデマンド受託事業

NHKから受託したNOD配信番組の権利処理・権料支払いから原盤・メタデータ制作、配信、編成、広報までの一連の業務を円滑に実施すると共に、無料配信や即日配信など多様な配信サービスをサポートしました。昨年にも増してNODの視聴は好調で、連続テレビ小説「ブギウギ」や大河ドラマ「どうする家康」などの新作がよく見られるとともに、大河

ドラマ「軍師官兵衛」「真田丸」など過去の名作番組を新たな権利処理して配信する「蔵出し番組」も多くの視聴数を獲得しました。「クローズアップ現代」放送開始30周年を記念した展開とも連動し、国内外の多くの権利者と交渉して配信につなげ、好評を得ました。NODホームページのユーザーインターフェースの改善や、Android TVで視聴できるテレビ向けアプリの開発サポートも行いました。

3号業務（VOD提供）受託事業等

国内の配信事業者向けに番組を提供するVOD事業については、Huluなどへの番組提供のための権利処理と原盤制作を実施しました。また、NHKデジタルセンターの依頼により「NHKプラス」の原盤制作、TVer提供番組の原盤制作も行いました。

（9）＜受託映像国際放送等＞

海外現地法人

当社は、NHKから欧米における映像国際放送及び番組制作支援業務を受託、これら業務をNHKの関連会社であるNHK Cosmopedia America (NCMA) とNHK Cosmopedia Europe (NCME) に再委託してきました。

このうち、映像国際放送は、北米地域ではNCMAが放送する24時間日本語有料チャンネル「TV JAPAN」、欧州・北アフリカ・中東地域約60カ国においては、同じくNCMEが放送・配信する24時間日本語有料チャンネル「JSTV」を通じて行ってきました。

「TV JAPAN」及び「JSTV」は、NHK番組を中心に民放番組や邦画も含めて編成されており、そのうち1日平均5時間をNHKから受託した「邦人向け協会衛星国際放送」として放送してきました。しかし、NHKが欧米在留邦人むけの番組提供をインターネットを通じて行う方針を決めたことから、衛星を使う映像国際放送の受託は23年度末で終了しています。

番組制作支援業務としては、NCMAには、大谷選手など日本人選手が活躍するMLB中継制作に加え、BS1や国際放送NHKワールドJAPANの定時・特集の制作支援を委託してきました。又、国際放送局NYスタジオからの「NEWSLINE」の制作・送出業務やスタジオ運用管理業務も委託。現地にNCMAという拠点を持つ強みを生かし、幅広くNHKの番組制作を支えました。

NCMEにも、NHK番組制作支援及びコーディネート業務を委託。大型中継番組や紀行番組など、多岐に渡るコンテンツの制作支援を行いました。NCMEは、会社清算すること

になり、2023年10月末で番組制作業務を終了しましたが、当社職員1人をロンドンに駐在させ、大型中継の制作やNHK制作支援は続けています。

さらに、タイにおいても当社が出資するNippon Production Service (NPS)を通じて、NHK国際放送の取材・制作支援や現地向けNHK番組販売などの分野で業務を推進しました。

(10) <業務システム改革への取り組み>

業務改革プロジェクト

社内システムを刷新を目的に2020年に設立した社内プロジェクトは、ERP会計、管理会計、著作権、事業管理、電子契約などの業務領域に分け、2022年5月以降に新システムを順次リリースしてきました。新システムの導入後から2023年度にかけ、ユーザーから寄せられた多くの改善要望の中から必要性の高い機能を優先し改修するとともに、以前は申請用紙の提出やファイルの送受信で行ってきた社内申請の電子化等を推し進めてきました。またユーザーインターフェースの改善を目途に社内システムのトップページの改修を行いました。

(11) <業務支援>

アーカイブス事業

NHKの放送番組を映像・音声素材、データとともに登録・保存する業務、また保存されているコンテンツの活用に関わる業務を行っています。MCG素材再利用アドバイス業務は問合せが飛躍的に伸び2年目となりました。初年度の約2倍の1,100件を超える問合せを受け、調査にあたる社員・スタッフの熟練度もあがり、アーカイブス情報システムに記載されたメタデータの誤りを見つけ修正を行ないました。調査の中で元映像の出典がわかったものは、積極的にアーカイブスの記録に追記し、データベースの信頼度を高め、アーカイブス情報を使う際の基本知識を初心者に教える役割も担い、好評です。

自席のパソコンで試写映像がみられるフィルムの見える化業務では、地域を重点に、全国各地の関連ニュース・番組の未編集素材やクリーン約8,300コンテンツのフィルム映像をファイル化し、アーカイブス保存サーバーへ登録しました。このファイル化によって、地域にしかない過去の映像・音声の重要性が再認識され、中部、東北など各地でアーカイブス

を活用した定時枠のアーカイブス番組が始まりました。

アーカイブス未保存の番組テープを探し出し、保存化する番組発掘業務では、芸能・教養・科学番組など幅広い分野から テレビ番組2,300本、ラジオ番組1,000本を発掘し、2,200本のテレビ・ラジオ番組を登録・保存しました。また、川口アーカイブスで、発掘成果を活用した「ステージ101」「できるかな」などのイベントや地域放送局との連携イベントを実施しました。

アーカイブスに保存された過去の膨大な番組や映像素材を活用した番組制作も行っています。「4Kプレミアムカフェ」「あの日あのときあの番組」や16ミリフィルムを高画質化してBS4Kで放送する「よみがえる新日本紀行」、さらにSD画質の番組をNEPレストアサービスで4K化した「NHK特集」名作選、「ふたりのビッグショー」「にんげんドキュメント」などを放送。4K放送の可能性を広げるとともに、「映像の世紀バタフライエフェクト」や「NHKスペシャル 映像記録 関東大震災」の映像リサーチ・権利確保業務も行うなど、NHKアーカイブスの存在感を高めました。

著作権・権料支払業務

NHK知財センター著作権・契約部との連携のもと、各種事業展開に関わる権利処理についての情報集約、管理、相談への対応および映像コンテンツ権利処理機構（ARMA）、JASRACなどの権利者団体等との調整を行い、円滑な事業展開を支援しました。また、ビデオグラム、NOD・VOD、CS・BS、CATV、航空機内上映への提供等番組二次展開に関わる権利者への権料支払業務、NHKからの制作受託番組の放送料支払いの審査業務、商標出願管理業務など、権利関係業務に幅広く対応しました。また、知財センター著作権・契約部からの委託により、インターネットに無断で投稿された動画の削除を当該サイト運営者に依頼するなど番組の「不正利用対応業務」を行い、さらに同センターから国際契約作成業務を受託しました。

この他、NHKグループ経営戦略局からの委託により「一般事業者へのNHK番組のまるごと提供」に関する窓口対応、権利処理、納品業務を行いました。

権利確保サポート業務

NHK知財センター著作権・契約部からの委託により、「プロフェッショナル 仕事の流儀」などの定時番組、大河ドラマ「どうする家康」、「光る君へ」、連続テレビ小説「らんまん」「ブギウギ」、ドラマ10「大奥」などのドラマ、「BS1スペシャル 戦い、そして、死んでいく」などのドキュメンタリーについて、制作部門と連携して権利者と交渉、放送及

び配信、海外発信などの権利を確保し、併せて権利情報データ作成も行いました。また、「常時同時配信（NHKプラス）サポート業務」として制作現場からの権利処理に関する相談窓口業務を受託し、各種問い合わせに対応しました。

NHK第1制作センターからは、一部の学校放送番組について再放送や展開のための権利情報整備業務に加え、「NHKラーニング」で配信されるコンテンツの権利処理業務を受託、権利者への支払い業務までを担当しました。

独自事業としては、放送番組国際交流センター（JAMCO）よりNHKや民放番組の海外への提供のための権利処理業務を受託しました。

(12) <新規事業等への取り組み>

イノベーション戦略室

イノベーション戦略室を中核に、事業開発に取り組みました。3Dスキャンと超高解像度映像技術を活用した3DCGコンテンツ事業では、4月からNHK 8K放送で3DCGを活用した新番組「ヒミツの至宝さん！」がスタートしたほか、大阪東洋陶磁美術館に新美術体験として「体感！国宝油滴天目茶碗」を常設展示コンテンツとして納めました。

ユニバーサルサービス領域では、手話CGのシステム、アバター開発を進め、NHKグローバルメディアサービスと共同開発したデジタルヒューマンアバター「KIKI」は、東京2025デフリンピック応援アンバサダーに任命されました。

NHKコンテンツの外部提供新規事業である「オンライン授業用番組ライブラリー」は、4つの大学で次期3か年の継続契約をいただいたほかより少人数の学校にも対応できるサービスメニューを追加しました。

また社内ビジネスコンテストからスタートした「オーディオコンテンツ配信」事業において、「光る君へ」を題材にaudiobookとamazon audible向けにコンテンツの提供が新しく始まりました。

(13) <リスクマネジメント、コンプライアンス、情報セキュリティへの取り組み>

リスクマネジメント強化及びコンプライアンス推進のため「リスクマネジメント委員会」をWeb会議方式で計3回開催し、2023年度の活動方針や「内部統制の整備状況」「リスク点検活動」についての承認等を行いました。

また、各部門で作成する「業務プロセス図」から抽出したリスクについて、レビュー面談をWebなどで全部門と行い、必要に応じて修正等を助言しました。「コンプライアンス推進強化月間」には、いわゆるなりすましなどのデジタルリスクへの対応をテーマに、社外講師による全社員向け研修を行いました。

NHKやNHKメディアホールディングスによるグループ研修にも参加したほか、当社各部門において様々なテーマで勉強会を開催し最近のリスク事例などを共有しました。個人情報保護については、委託先での個人データの安全管理を徹底するためのアンケートとチェックシートの活用拡大を進めました。

個人情報保護法で適用除外となっている報道・著述分野の個人情報の取扱いについては、新たに規程を策定して、安全管理等に万全を期すことを一層明確にしました。

情報セキュリティへの取組としては、4月にI SMS定期維持審査を受け登録認証が更新されました。また、NHK及びNEPによる標的型攻撃メール訓練を11-12月に実施し、さらに事後研修も行い、全社のITリテラシーの向上に努めました。

内部監査部門は、4部門の監査を行いました。監査結果はその都度社長に報告したうえで監査役に手交するとともに、常勤役員会にも報告し、取締役会で上期総括報告を行いました。内部監査を担っていたNEP内部監査室は、NHKメディアホールディングスの内部監査室が、当社に対する内部監査を実施することに伴い、6月末で廃止としました。

その後は、業務点検実施要領にのっとり、業務点検担当者が、4部門の業務点検を行いました。点検結果はその都度社長に報告したうえで監査役に手交するとともに、常勤役員会で報告しました。

法務・審査部

契約審査件数は年々増加傾向にあり、今期においても稟議の要否を問わず6,000件超について精度の高い対応を維持しました。

個別には、本社・地域支社における「下請法」の遵守や「業務委託の適正性確保」の強化、併せて電子契約の導入・促進のために、研修・勉強会の企画・実施や日常的なコミュニケーションを通じて啓発・指導を継続しました。契約関連業務としては、事前相談の働き掛けとSING稟議を通しての内容の精査によって、適正かつ迅速な対応を実施しました。また、「取引基準」の改定などに伴って各種契約書ひな形を適宜修正・更新して実用性・利便性を高めると共に、リスク回避に寄与しました。

さらに、コンテンツ等のIP展開のための体制強化の一環として、部員それぞれのスキル

を最大限発揮することのできる環境と配置を整えて、現業部門と管理部門に対するサポートの貢献度・満足度・安心度を向上させました。

コンテンツ展開センター

外部に委託をしている顧客対応窓口業務（電話受付、メール受付）は、問合せ等で得られる個人情報の管理を厳重にするための施策を実施し、問合せ等に対する迅速な対応を行いつつ、情報漏洩等のリスク軽減との両立を図りました。

DX推進部

S I N G / E R P は、業務改革プロジェクトと連携しながら、V i s t e x 改修、インボイス対応など多くの改修を加えて、利便性の向上に努めました。また、全国支社に専用線を開設しネットワークインフラの冗長化・安定化を実現。また無線LAN工事も進め、I T 環境を改善しました。

昨年度完遂した社員・スタッフへの社給P C 配布を前提に、T e a m s の利活用促進を図り、業務の効率性・生産性を高めました。

(15) <分野別売上高>

区 分	第34期 (2022.4.1~2023.3.31)		第35期 (2023.4.1~2024.3.31)		対前年度増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
放送番組制作	45,308,425	66.6%	42,773,603	67.4%	△2,534,822	△5.6%
映像ソフト販売	2,622,143	3.9%	2,206,819	3.5%	△415,324	△15.8%
イベント・ソフト制作	8,675,199	12.7%	7,624,344	12.0%	△1,050,855	△12.1%
番組提供・デジタル制作	3,038,458	4.5%	3,347,614	5.3%	309,156	10.2%
キャラクター事業	866,698	1.3%	808,027	1.3%	△58,671	△6.8%
権利ビジネス	6,404,909	9.4%	5,229,916	8.2%	△1,174,993	△18.3%
N O D 事業	557,376	0.8%	900,050	1.4%	342,674	61.5%
受託映像国際放送	579,771	0.9%	558,718	0.9%	△21,053	△3.6%
合 計	68,052,979	100.0%	63,449,091	100.0%	△4,603,888	△6.8%

※構成比・増減率は小数点第二位以下を四捨五入して表示

(参考) 2023年度 コンクール等受賞一覧

【国内コンクール】

コンクール名	部門/賞	番組および賞品名
第60回ギャラクシー賞	テレビ部門/優秀賞	世界サブカルチャー史 欲望の系譜 シーズン3 日本 逆説の60-90s
第60回ギャラクシー賞	テレビ部門/選奨	声は届くのか ~秘蔵フィルムが映し出す1969 新宿西口地下広場~
第60回ギャラクシー賞	テレビ部門/特別賞	映像の世紀 バタフライエフェクト
2023年ギャラクシー賞	4月度月間賞	連続ドラマW「フェンス」
2023年ギャラクシー賞	7月度月間賞	プレミアムドラマ「家族だから愛したんじゃない て、愛したのが家族だった」
2023年ギャラクシー賞	8月度月間賞	ファミリーヒストリー 「草刈正雄~初めて知る米兵の父 97歳伯母が 語る真実とは~」
2023年ギャラクシー賞	8月度月間賞	E TV特集「“玉砕”の島を生きて(2)~サイ パン島 語られなかった真実~」
2023年ギャラクシー賞	12月度月間賞	プロフェッショナル 仕事の流儀「ジブリと宮崎 駿の2399日」
第49回放送文化基金賞	エンターテインメント 部門/奨励賞	NHKスペシャル 超・進化論
第39回ATP賞テレビグラン プリ	情報・バラエティ部門 /奨励賞	ヒューマニエンス 40億年のたぐらみ「“文 字” ヒトを虜にした諸刃の剣」
第39回ATP賞テレビグラン プリ	最優秀新人賞	丸山 梓 (ようこそ認知症世界へ)
第11回ATP上方番組大賞	番組部門/グランプリ および優秀賞	ロイヤル・ミステリー 皇后のドレスの謎
第13回先進映像協会 ルミ エール・ジャパン・アワード	4K部門/グランプリ	ワイルドライフ「アラスカの光と風 星野道夫× 大竹英洋 時を超える旅」
第13回衛星放送協会オリジ ナル番組アワード	番組部門 ドキュメン タリー/最優秀賞	発掘ロストワールド 恐竜の聖地ゴビ砂漠
第43回地方の時代映像祭	放送局部門/選奨	こころの時代~宗教・人生~「オモニの島 わ たしの故郷~映画監督・ヤンヨンヒ~」
第65回科学技術映像祭	自然暮らし部門/内閣 総理大臣賞	NHKスペシャル「映像記録 関東大震災 帝 都壊滅の三日間 前編」
第65回科学技術映像祭	教育・教養部門/文部 科学大臣賞	ダーウィンが来た!「生きものの不思議を解き 明かせ! 子ども研究者スペシャル」

【国外コンクール】

コンクール名	部門/賞	番組および賞品名
ニューヨーク・フェスティバル2023	ドキュメンタリー：環境・エコロジー部門／銀賞	NHKスペシャル「北の海 よみがえる絶景」
ニューヨーク・フェスティバル2023	ドキュメンタリー：ヒューマン関心事部門／銀賞	ザ・ヒューマン「浅川智恵子～自由へのスーツケース～」
ニューヨーク・フェスティバル2023	ドキュメンタリー：論評・視点部門／銅賞	謎の日本人サトシ ～世界が熱狂した人探しゲーム～
第24回ワールド・メディア・フェスティバル2023	アニメーション部門／大賞（グランドアワード）	アニメ「不滅のあなたへ」
第24回ワールド・メディア・フェスティバル2023	アニメーション：アニメ・マンガ部門／金賞	アニメ「不滅のあなたへ」
第24回ワールド・メディア・フェスティバル2023	エンターテインメント：ドキュメンタリー部門／金賞	謎の日本人サトシ ～世界が熱狂した人探しゲーム～
第24回ワールド・メディア・フェスティバル2023	ドキュメンタリー：自然・野生生物（海洋）部門／銀賞	NHKスペシャル「北の海 よみがえる絶景」
第24回ワールド・メディア・フェスティバル2023	ニュース：調査報道部門／銀賞	BS1スペシャル「デジタル・ウクライナ：衛星が変えた戦争」（NHK WORLD-JAPAN “Digital Eye Ukraine: The New Satellite War”）
第12回ドーヴィル・グリーンアワード2023	ドキュメンタリー：生物の多様性保全部門／金賞	NHKスペシャル「新・映像詩 里山 第1回 新潟の棚田 豪雪と生きる」
第28回アジア・テレビ賞	ドキュメンタリーシリーズ部門／最優秀賞	BS1スペシャル「デジタル・ウクライナ」（NHK WORLD-JAPAN “Digital Eye Ukraine”）
第28回アジア・テレビ賞	子ども番組部門／最優秀賞	第46回創作テレビドラマ大賞「月食の夜は」
第14回ルミエール・アワード2024	8K作品部門／最優秀賞	シリーズ 新・映像詩 里山（1）「新潟の棚田 豪雪と生きる」
第75回イタリア賞	デジタル・ファクチュアル部門／最優秀賞	『わたしはパパゲーノ』プロジェクト
MIPCOM2023ダイバーシティTVアワード	LGBTQIA+部門／ノミネート	夜ドラ「作りたい女と食べたい女」

3. 対処すべき課題

2023年度、受信料値下げやBS波削減を受けたNHK委託の減少を受け、売上高はコロナ禍が始まった2020年度以来の前年度比減収に転じました。継続する円安や物価高騰に伴う外部事業者への価格転嫁を進めたこともあって、営業利益は前年度比15%以上の減益となりました。

こうした減収局面の継続も想定した、従来とは次元の異なる厳しい経営環境に立ち向かい、持続可能な経営基盤を築くため策定したのが、新たな中期経営計画です。経営方針に「超える変わる」というキーコンセプトを掲げ、放送番組制作の枠を超え、イベントやデジタルなどあらゆるメディアに魅力的なコンテンツを提供する「真のコンテンツ総合企業」へと生まれ変わることを宣言しました。

この経営方針のもと、NEPが注力していく最大のポイントが「展開の強化」です。展開の起点となる、世界にも通用する魅力的なコンテンツを生み出すこと。NEP自らもコンテンツのIP（知的財産）を確保するとともに、NHKグループのIPを幅広く展開してNHKに財政貢献すること。そして制作と展開の進化を支える体制を全社でしっかりと築き上げること。これらの高い目標に向かって、NEPの最大の強みである制作と展開の力を結集して挑戦していきます。

その決意を示すため計画には、3か年最後の2026年度には、NHKグループのIPを展開する事業の売上を2023年度比で倍増させることを明記しました。2024年度の事業計画でも、NHK取引は前年度決算比で減少していますが、展開事業を中心に一般取引は前年度より増やして、5%の営業利益を確保することを記しました。

この方針を受けて、アニメやドラマをはじめあらゆるジャンルでの展開力を強化するため、これまでにはなかった4月の組織改正と人事異動を行い、全社を俯瞰した展開戦略を練り上げ社内連携のハブとなる「展開企画部」を新設。各部門と密接に連携してコーディネーションを行う「展開プロデューサー」や、法務・経理などバックオフィスの強化を担う「展開マネージャー」を配置しました。8月の人事異動でさらに強化を図るとともに、展開業務に当たる人材の育成にも注力していきます。

新たな収益の柱となる新規事業の開発にも尽力します。特にNHKグループとしてふさわしい、社会に貢献できる、未来につながる価値を提供できる事業として、ユニバーサルサービスの手話CG、最先端の映像展示も活用した公共的な大型イベント、NHKコンテンツの可能性を広げる2.5次元舞台、文化財や自然遺産などを超高精細で再現した3DCGによる事業、貴重なアーカイブスの活用などに力を注いでいきます。

全国に支社を持つNEPには、地域とNHKをつなぐパートナーとなって地域に貢献す

るという使命があります。地域に役立つ防災・減災をはじめとする情報を発信して、NHKへの信頼度を高めるとともに、全国放送や国際放送の番組を通して、地域の魅力を全国・世界に届けます。また地域番組を核に、地域との新たな結びつきにつながるイベントやデジタルの取り組みを開発して、コンテンツの総合力で地域を応援します。

事業や業務の遂行に当たっては、コンプライアンスの一層の強化を図るとともに、ダイバーシティー&インクルージョン、人権の尊重、SDGsの達成といった多様性を尊重する持続可能な経営を全社で進めていきます。また、社員はもちろんともに働くNHKグループのメンバーや国内外の制作者・事業担当者のやる気とクリエイティブを徹底して尊重し、NEPでの仕事に携わる一人一人にとって風通しがよく共感に満ちた組織を構築していきます。

4. 設備投資等の状況

当期の設備投資総額は3億65百万円で、内容は以下のとおりです。

(単位 百万円)

資産の種類	取得価額	備考
有形固定資産 建物・構築物	6	無線LAN構築工事
	6	受付改修工事
	12	レイアウト変更工事その他
有形固定資産 工具器具備品	27	業務用PC・HDD他周辺機器
	9	編集機
	9	カメラ、什器、その他
無形固定資産 ソフトウェア	270	新基幹システム
	24	daigakuTV、その他
計	365	

5. 資金調達の状況

前記の設備投資の資金は、自己資金で充当しています。

6. 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況

該当事項はございません。

7. 事業譲受の状況

該当事項はございません。

8. 他の会社の株式その他の持ち分または新株予約権等の取得の状況

該当事項はございません。

9. 財産および損益の状況の推移

区 分	第 32 期 (2021 年 3 月期)	第 33 期 (2022 年 3 月期)	第 34 期 (2023 年 3 月期)	第 35 期 (2024 年 3 月期)
売 上 高	59,081,011	62,026,907	68,052,979	63,449,091
営 業 利 益	2,235,524	1,985,077	4,038,167	3,343,765
経 常 利 益	2,334,960	2,051,608	4,160,332	3,410,484
当 期 純 利 益	1,497,386	1,512,604	4,136,856	2,234,140
1 株 当 たり 当 期 純 利 益	233,201 円 38 銭	238,459 円 11 銭	656,683 円 82 銭	367,457 円 34 銭
総 資 産	32,501,895	37,070,312	38,512,470	36,359,009
純 資 産	18,947,404	19,283,697	20,952,534	20,447,920

10. 主要な事業内容

- (1) 放送番組の企画、制作、購入
- (2) 有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布
- (3) 映像国際放送の実施に関連する業務
- (4) 放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行、頒布
- (5) 放送に関連した催し物や公共的な各種催し物の企画、実施

1 1. 主要な事業所等

本 社 東京都渋谷区神山町4番14号 第三共同ビル
 近畿総支社 大阪府中央区谷町三丁目1-18 NS21ビル
 四国支社 松山市堀之内5 NHK松山放送局内
 中部支社 名古屋市東区東桜一丁目13-3 NHK名古屋放送センタービル
 中国支社 広島市中区大手町二丁目11-10 NHK広島放送センタービル
 九州支社 福岡府中央区六本松一丁目1-10 NHK福岡放送センタービル
 東北支社 仙台市青葉区本町2丁目20番1号 NHK仙台放送局内
 北海道支社 札幌府中央区北一条西九丁目1-5 NHK札幌放送局内

NHKアーカイブス 埼玉県川口市上青木三丁目12-63

ワープステーション江戸 茨城県つくばみらい市南太田1176

1 2. 従業員の状況

	従業員	NHK		増減	平均年齢
		退職者	職員 (出向者)		
男	424	133	81	△30名	52才 9ヶ月
女	204	8	23	1名	47才 1ヶ月
計	628	141	104	△29名	50才11ヶ月

注1：役員のほか、NHKなど外部への出向者は含みません。

1 3. 重要な親会社および子会社の状況

(1) 親会社の状況

当社の親会社は、株式会社NHKメディアホールディングスで、当社の株式6,080株を保有しております。これは当社の議決権の100%にあたります。

なお、NHKメディアホールディングスは、NHKの子会社にあたることから、当社はNHKの放送法上の子会社であります。

当社は、NHKからの委託による放送番組などの制作と購入、有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布、映像国際放送の実施、NHKの放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行と頒布、NHKの放送に関連した催し物や公共的な催し物の企画と実施、これらに関連する業務およびNHKが制作した番組の利用権の購入などを行っております。

(2) 重要な子会社の状況

該当事項はございません。

(3) 親会社等との間の取引に関する事項

当社では、NHKメディアホールディングスおよびNHKとの取引をするにあたり、独立した第三者との間の取引と同等の条件であることを確認し、取締役会において当該取引について相当との判断を行いました。

1 4. 主要な借入先と借入額

該当事項はございません。

II. 会社の株式に関する事項

1. 発行可能株式総数 10,000 株
2. 発行済株式の総数 6,080 株
3. 期末株主数 1 名
4. 株 主

株 主 名	持 株 数	持株比率
株式会社NHKメディアホールディングス	6,080 株	100%

5. その他株式に関する重要な事項

当社は、2023年12月21日開催の取締役会の決議に基づき、2024年1月15日付で自己株式341株を消却しております。

Ⅲ. 会社役員に関する事項

1. 役員の地位、氏名、担当、兼職の状況

(2024年3月31日現在)

地 位	氏 名	担 当	他の法人の代表または重要な兼職の状況
代表取締役社長	有 吉 伸 人	全体統括、CRO	(株)NHKプロモーション 代表取締役社長
専務取締役	岩 堀 政 則	地域統括、海外戦略統括、 NHK取引統括補佐	
専務取締役	諏 訪 雄 一	一般取引統括、大阪万博統括、 SDGs統括、建築管理（建設業経 営業務管理責任者）	
常務取締役	松 本 俊 博	CDXO イノベーション戦略統括	
取締役	佐 藤 高 彰	NHK取引統括	
取締役	水 野 直 樹	経営企画統括、CHRO、 NHKグループ支援	
監査役	行 成 博 巳		
監査役（社外）	海 野 正 一		
監査役（社外）	大 月 将 幸		弁護士・公認会計士
監査役 （非常勤）	高 橋 正 美		(株)NHKメディアホール ディングス監査役（非常勤）

注1：2023年6月27日付で、有吉伸人、岩堀政則、佐藤高彰、水野直樹が取締役に、高橋正美が監査役（非常勤）に就任しました。また、同日付で松本浩司、矢野達史、河内秀則、押田敦が取締役を退任しました。

注2：監査役行成博巳は、内部統制とリスクマネジメントに関する知見を有し、放送事業に高い見識を持っています。監査役（社外）大月将幸は、弁護士・公認会計士の資格を有し、法務、財務および会計に関する相当程度の知見を有しています。監査役（社外）海野正一は、内部統制に関する知見を有し、企業経営に高い見識を持っています。非常勤監査役高橋正美は、当社の親会社である（株）NHKメディアホールディングスの非常勤監査役を兼任しており、幅広い視点からの確な監査を行っています。

2. 取締役・監査役の報酬総額

役員区分	報酬の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額		対象役員数
		定額部分	変動部分	
取締役 (社外役員を除く)	97,083千円	80,433千円	16,650千円	10人
監査役 (社外役員を除く)	17,160千円	17,160千円		2人
社外役員	14,628千円	14,628千円		2人

※ 使用人兼務取締役の使用人給与部分を含みます。

3. 社外役員に関する事項

社外監査役

社外監査役のうち、大月将幸監査役は当年度に開催された取締役会に8回出席[8回開催中]、監査役会に6回出席[6回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

海野正一監査役は当年度中に開催された取締役会に8回出席[8回開催中]、監査役会に6回出席[6回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

IV. 会計監査人の状況

1. 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

2. 会計監査人の報酬等

公認会計士法第2条第1項の業務に関する報酬 28,000千円

注1：当社の監査役会は、前事業年度における監査計画と実績の比較を行い、監査時間および報酬額の推移を確認し、当事業年度の監査予定時間および報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬について、会社法第399条第1項および第2項の規定による同意を行っています。

3. 会計監査人の非監査業務の内容

該当事項はございません。

4. 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

会社法第340条第1項各号に掲げられている事由およびこれに準ずる事由等を会計監査人の解任または不再任の決定根拠としております。

5. 会計監査人の責任限定契約の内容

該当事項はございません。

備考：報告中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示してあります。

V. 業務の適正を確保するための体制および運用状況

1. 業務の適正を確保するための体制

当社は、会社法第362条第4項第6号の規定や会社法施行規則の規定に従い、当社の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）について、以下のとおり、取締役会で決議しています。

（2023年8月29日 取締役会決議）

業務の適正を確保するための体制の整備に関する決議

（1）取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

①当社は取締役、社員を含めた行動規範として、「NHKエンタープライズ倫理・行動憲章」と「行動指針」を定め、これらの遵守を図っている。取締役、社員のコンプライアンスの徹底を図るため、「コンプライアンス相談・通報規程」「相談・通報窓口」などを社内に効果的に周知し、適宜、法令等の遵守状況をモニタリングしている。また、「インサイダー取引防止規程」を定め、取締役、社員等によるインサイダー取引の禁止を規定している。

②取締役会については、「取締役会規則」に基づき、適切な運営を確保し、定例で開催するほか、必要に応じて随時開催し、取締役間の意思疎通を図るとともに、相互に業務執行を監督し、法令・定款違反行為を未然に防止する。万一、取締役が他の取締役の法令・定款違反行為を発見した場合は直ちに監査役および取締役会に報告するなどして、その徹底を図る。

③同様に、社長、常勤取締役等で構成する常勤役員会については「役員規程」、または「執行役員規程」を遵守し、職務執行の法令・定款への適合を確保する。また、監査役は、取締役の職務執行、経営機能に対する監督強化を図る。

④コンプライアンスに関する研修や、社内報等による啓発、社員総会を通じて、全社的な法令遵守の推進を図るとともに、「稟議規程」「職務権限規程」「経理規程」等により、取締役および社員の職務執行の透明性を向上させる。

（2）取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

①「文書管理規程」の整備によって、職務の執行に係る文書・情報の扱いを明文化し、取締役の職務の執行に係る文書・情報の適切な保存および管理を図る。

- ②「株主総会議事録」「取締役会議事録」「常勤役員会議事録」については、「文書管理規程」に基づいて適切かつ確実に保存・保管し、取締役および監査役が常に閲覧可能な状態に置く。
- ③情報セキュリティの確保に関する規程を設け、情報システムの安全かつ適正な管理・運営を行う。
- ④個人情報については、法令および「個人情報保護規程」に基づいて厳重に管理する。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ①「リスクマネジメント委員会運営に関する規程」を定め、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、「NHKグループ コンプライアンスおよびリスクマネジメントに関する規程」に則り、全社的にリスク管理体制の整備・運用にあたる。
- ②投資的リスク、下請法等法令違反につながるリスク、不正アクセスや情報漏洩等、情報セキュリティに関するリスクに対して、信用調査や対応マニュアルの整備等を通じて対策を図る。また、公共放送グループの一員として、金銭、情報等の取り扱いについては特に厳正を期す。
- ③親会社であるNHKメディアホールディングスの内部監査室による監査を受け、必要な改善を行う。また業務点検担当者を置き、業務活動の遂行状況を点検・評価するとともに改善提案等を行う。
- ④危機管理と予防的管理についての体制を充実させ、研修等を含め、損失の危険の管理について全社的な認識向上を図る。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①職務分掌に関する諸規程を定め、取締役および各部門の所管と権限を明確にし、経営に関する意思決定および職務執行を効率的かつ適正に行う。
- ②重要な意思決定については、常勤取締役等による役員会などにより多面的に検討し、慎重に決定する仕組みを設けている。

(5) 当社ならびにNHKグループにおける業務の適正を確保するための体制

- ①NHKは、子会社等の事業が適切に行われることを目的として、「関連団体運営基準」により、子会社等の事業運営およびこれに対するNHKの指導・監督等に関する基本的事項を定めており、当社もその適用を受ける。
- ②NHKは、「関連団体運営基準」に規定する事項およびNHKが指定する事項につい

て、監査法人等に委嘱して子会社等の業務運営状況調査を実施し、監査法人等の報告に基づき、子会社等に対し必要な指導・監督を行っており、当社もその適用を受ける。

③NHKの監査委員会が当社に対し事業の報告を求め、または業務および財産の状況を調査する場合には、適切な対応を行う。

④NHKの「リスクマネジメント規程」に基づき、リスクの発生防止に係る管理体制を整備し、NHKおよびNHKグループの業務の円滑な運営の確保を図る。

⑤「NHKグループ コンプライアンスおよびリスクマネジメントに関する規程」法令違反・内部規程違反等の不正行為等についての通報制度を整備するとともに、NHKグループに係るリスクについては、リスクマネジメント責任者は直ちにNHKの総合リスク管理組織に対して通報の内容等を報告する。

(6) 監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項および当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

①監査役からの求めがあった場合には、監査役の職務を補助すべき使用人として、当社社員から監査役補助者を任命する。監査役補助者の任命、解任、人事異動、賃金等については監査役の同意を得たうえで、取締役会で決定する。

②監査役補助者は、当社業務を兼務することができるが、監査役より監査業務に必要な命令を受けた場合は、その命令に関して、取締役等の指揮命令を受けないものとする。

③監査役の職務を補助する部署を人事・総務部および経理部とする。監査役より監査業務に必要な命令を受けた社員は、その命令に関して取締役等の指揮命令を受けないものとする。

(7) 監査役への報告に関する体制

①取締役または使用人は、法定の事項に加え、当社に重大な影響を及ぼす事項やコンプライアンス違反等の事実が生じた場合には、速やかに監査役に報告するものとする。

②監査役は、いつでも必要に応じて、取締役および使用人に対して報告を求めることができる。

③当社は、監査役に報告をした者に対して、その報告を行ったことを理由として不利益な扱いを行うことを禁止し、これを徹底する。

(8) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

①監査役は、重要な会議に出席するとともに、議事録が作成された場合は、その事務局

はこれを監査役に送付する。

②監査役は、親会社であるNHKメディアホールディングスによる監査の結果とその改善状況について報告を受け、定期的な情報交換を行う。

③監査役の職務の執行について生じる費用等を支弁するため、一定の予算を設ける。監査役がその職務の執行につき、費用の前払い等を請求したときは、係る費用または債務が当該監査役の職務の執行に必要でないことを証明した場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。

2. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社の取締役会は、取締役6名で構成されていて、社外監査役2名を含む4名の監査役も出席し、業務執行取締役から業務執行状況の報告が行われるとともに重要事項の審議・決議を行っています。

また、常勤監査役は、取締役会のほか常勤役員会等の社内の重要会議に出席するとともに、取締役から業務執行の状況について直接聴取を行い、業務執行の状況や内部統制、コンプライアンスに関する問題点を監視する体制を整備していて、経営監視機能の強化および向上を図っています。

コンプライアンスに関する取り組みの状況では、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を開催し、コンプライアンスやリスクマネジメントに関する報告や決定が行われています。また、全役員、社員等を対象とした研修活動も定期的を実施してコンプライアンスの徹底を図っています。

NHKの経営方針に基づいて、内部監査部門と規程は2023年6月末で廃止し、親会社であるNHKメディアホールディングスの内部監査室による監査を受け、必要に応じて改善を図っています。また業務点検担当者を置き、業務活動の遂行状況を点検・評価するとともに改善提案等を行なっています。

3. 業務の適正を確保するための体制の評価

全社的な内部統制について、NHKメディアホールディングス内部監査室が「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」という6つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価しました。

また、業務上重要なリスクを抽出した上で、必要な対応が実施されていることを評価しました。

評価の結果、2024年3月31日時点における当社の内部統制は、概ね有効であると判断しました。